

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『シヨパンが教えてくれたこと』

静岡県裾野市立西小学校 四年一組 男子 山田 太輝

しず岡県すそ野市。ぼくの学校では、地元でとれた野菜や魚をたっぷり使っている。モロヘイヤ、ナス、ゴーヤ。給食なら、苦手な野菜もへっちゃらだ。給食室は、いつも立ち入り禁止。いったい、今日はどんな魔法とじゅ文をとなえているのだろうか。

ぼくは給食が大好きだ。理由は二つある。一つめはジャンケン大会だ。きちんと分けていても、早退したり、休んでしまった子の牛乳やおかずが残ってしまう。すると、おかわりジャンケンが始まる。教室はにぎやかになり、まるで運動会のようにもえる。負けて頭を強くおさえる友だちもいれば、

「よっしゃー！」
と言って、デザートをトロフィーのように高くあげて見せびらかす。クラスのみんなで楽しみながら、温かい給食を食べることが出来る場所があるからだ。

二つめは、海外旅行を楽しむことだ。飛行きのチケットやパスポートはいらない。六月になって、サッカーワールドカップがロシアで始まった。給食では、対戦国の料理がならぶ。あまいのかからいのか、それともすっぱいのか。こんだて表を見ても、全く予そうがでなかつた。日本の相手はコロンビア、セネガル、そしてポーランド。ぼくの心のゴールネットをゆらしたのは、ポーランドのコートレットとビゴスだ。コートレットはカツレツ、ビゴスは夏野菜のにこみ料理である。ぼくが大好きな音楽家シヨパンは、ポーランド人だ。ぼくはシヨパンのふるさと料理を食べて、とても幸せな気分になることができた。

ぼくの名前は「太輝」と書いて「たいき」と読む。どっしりとたくましく、空に光る星のような輝く人になってほしい。父が願いをこめて、一生けんめい考えてくれた名前だ。けんこう手帳を見れば、ゆっくりと坂道をのぼるように体重が増えてきているのが分かる。小さなぼくだけど、これからも給食を残さず食べて、病気に負けない元気な体を作りたい。出されたものを食べるだけではない。食べたものが、ぼくの体の中でどんな活やくをしたり、力になるんだろう。給食という言葉をきいてワクワクするのはぼくだけではないと思う。

シヨパンのふるさとが教えてくれたこと。それは、自分の生まれ育った街の風景や仲間そして食べ物を大切にすることだ。だからシヨパンは、ふるさとの思いをメロディーにのせたのだと思う。ぼくの学校の音楽室には、シヨパンがいる。きっと給食室でこっそり味見をして、まほうのスパイスをくわえているにちがいない。